

ハーモニー

Harmony

第67号 2015年6月10日発行
日本養護教諭教育学会

Japanese Association of Yogo Teacher Education

日本養護教諭教育学会

事務局：〒448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学養護教育講座

後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

<http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp>

目次

新理事長挨拶……………1	5月14日)……………6
新理事抱負……………2	2016年度「研究助成金研究」の申請募集と第23回
第23回学術集会(熊本)へのお誘い……………4	学術集会での「投稿奨励研究」の推薦について…6
第23回学術集会のご案内-第3報-……………4	学会誌第19巻第2号の投稿原稿の募集……………6
新シリーズ「災害について考える」①……………5	編集委員会委員の紹介……………7
私の県の「ここが特色」②(埼玉県)……………5	理事会等の活動報告……………7
トピックス：教育再生実行会議「これからの時代	「養護教諭の倫理綱領(案)」への意見募集……………8
に求められる資質・能力と、それを培う教育、	編集後記……………8
教師の在り方について(第七次提言)(平成27年	

新理事長挨拶

学会の発展を目指した 第VII期理事会の取り組み

理事長 後藤ひとみ(愛知教育大学)

この度、第VII期の理事長に選出されました。2006年から2011年の二期を務めましたので、3年ぶり三期目の就任となります。理事長選出のための理事会は昨年10月の2014年度総会後に開催されました。席上、私は三木前理事長の再任を提案しましたが、「学長という立場を活用して日本養護教諭教育学会のために働いてほしい」との声があり、4月より愛知教育大学の学長を務めている身としては、他学会の例もあるので、一理あるとの思いからお引き受けしました。

昨今、教育再生実行会議の提言を受けて中央教育審議会での検討が加速しており、教育改革の動きが養護教諭の未来にどう影響していくのかを確実に捉える必要があります。情報収集やタイムリーな要望活動など、ご期待にそえるよう努めていきたいと思っております。

ところで、本学会(当初は全国養護教諭教育研究会と呼称)の設立集会が開かれたのは1992年11月21日の

ことです。北海道教育大学旭川校で養護教諭養成を行っていた私も参加し、発起人18名の仲間に入りました。以来、今秋で23周年を迎える本学会の“これまで”を見つめてきましたが、グローバル化やイノベーション、地方創生などが掲げられる今、“これから”を指向した活力ある事業展開を検討すべきと考えています。

2012年12月に発刊した「学会設立20周年記念誌」の編集後記には、「20年間の「回想録」ととどめるのではなく、“学会事業のまとめ”という資料的意味をもたせることで、本会の歴史をたどり、今後の発展にむけた課題整理に活用できるものにするというコンセプトで編纂しました」とあります。この言葉通り、記念誌編集委員会の委員長を担うなかで、本学会が果たしてきた功績とともに、改善すべき課題を捉えることができました。

第VII期においては、これらの課題を改善しつつ、本学会のますますの発展にむけたプランを提示していきたいと考えています。

一つ目の課題は、会則、実施細則などの規定の改正です。学会に名称変更した1996年度総会以降、運用しながら一部修正したり、関係内規を加えたりしてきた結果、全体のバランスを再調整する必要が生じていま

す。二つ目は、学会活動の充実にむけて、「養護教諭教育」の理念にそった学術的な活動の推進を図ることです。具体的には、学会設立20周年を契機に提案した「学術集会における一般発表の演題区分」を実質化し、学会員の研究内容・発表内容が「養護教諭教育」のどの領域に属するものかを明らかにすること、学会誌編集の精度を高め、養護教諭の専門性を支える学問構造を提示することです。三つ目は、養護教諭の実践と養成と研修をつなぐ養護教諭教育プログラムにそった学会活動を推進していくことです。学術集会での企画、プレコンgresの内容、学会誌やハーモニーの特集に系統性をもたせるなど、計画的活動が必要です。四つ目は、養護教諭が直面している課題をいち早く取り上げ、最新の情報提供のもとで意見交換の場を提供する組織であるという信頼性を高めることです。

これら以外にも、養護教諭を冠した全国唯一の学術団体として、更なる発展を目指して取り組むべき事項はありますが、第VII期理事会の使命は第VIII期以降の学会運営の礎となるような諸整備を積極的に進めていくことと考えています。

そのための布陣として、理事の役割分担を少し変更しました。最も大きな変更は、学会活動担当の理事・常任理事が扱ってきた事業の一部（学術集会での「一般発表の演題区分」の検討など）を学術担当の理事・常任理事の役割にしたことです。学術団体としての機能を高め、社会的責任を果たすためには学術担当の役割が重要です。よって、担当常任理事は編集委員長経験者をお願いしました。学会の学術性を示す指標とも言える学会誌編集から捉えた課題と摺り合わせながら、養護教諭教育の学問区分についても検討する予定です。

これに伴い、学会活動を担当する理事・常任理事には、養護教諭の資質能力の向上にかかわる事業や養護実践に直結するような事業を中心に取り組んでもらうことにしました。特に今年度は、2014年度総会で前文と条文の項目名をご承認いただいた「養護教諭の倫理綱領」の全内容を提案するという課題があります。この作成はもとより、養護実践や養成教育、現職教育に寄与するような学会活動の発展を期待しています。

学会誌とハーモニーの編集を担当する理事・常任理事は、ともに第VI期での経験者をお願いしました。2011年度（第15巻）より着手した学会誌の年2回（9月と3月）発刊の体制は徐々に確立しており、学会の広報活動であり、学術活動である看板事業として、ますますの充実が期待できます。

総務は学会事務局との連携が必要なことから、担当

常任理事のもとに、事務局長兼務の理事を置くことにしました。合わせて、会員の入退会手続きや納金表管理を行っている事務局に近い地区の会員から会計担当の理事を推薦し、総務・事務局体制の強化と諸規定改正作業の円滑化を図ることにしました。

以上のような体制を実現するために理事長推薦の理事として、私立学校を含む現職養護教諭の方3名、行政経験のある方を含む大学教員2名を推薦しましたが、数年前より会費値上げが話題になりつつある財政を勘案して、遠方の方には監事を委嘱させていただきました。

なお、総会でご承認いただいた津島ひろ江理事の勤務先が中国・四国地区から近畿地区に変更になり、中国・四国の理事を選出し直す必要が生じました。現在、理事の後任に関する規程が整備されていないため、新理事会で検討した結果、選挙で次点であった会員に委嘱することとし、宮本香代子会員が選出されました。事後報告となりましたが、ここでご報告させていただくとともに、ご承認をお願いしたいと思います。津島会員には理事長推薦の理事をお願いしましたが、勤務状況から難しいとのことで監事をお引き受けいただきました。選挙による理事は所属地区ごとに選出されますので、所属地区が変わる場合の対応規定についても諸規定改正に合わせて提案させていただきたいと思います。

会員の皆様におかれましては、今後ともご支援とご協力の程をお願い申し上げます。

新理事抱負（50音順・敬称略）

「情報・ご意見をお寄せください！」

大川 尚子（関西福祉科学大学）

今年度より、新理事として編集委員会ハーモニー担当をさせていただくことになりました。会員の皆様からのご協力を得ながら、学会からの情報を発信していきます。ぜひとも色々な情報やご意見をお寄せください。会員の皆様のために役立つハーモニー作りを心掛けていきたいと思っております。

「現場とのパイプ役」

加藤 見子（学校法人滝学園滝中学校滝高等学校）

現職養護教諭である私にとり、“バイブル的”な意味合いを持つ本学会。しかし、その存在は何かしら遠く感じていました。新理事を仰せつかり、現職の観点を学会に反映できるよう、また現場養護教諭が本学会を身近なものとして位置づけ活用できるよう、パイプ役となり努めて参りたいと思っております。

「北陸に学会のかぜを」

河田 史宝 (金沢大学)

学術担当といたしまして、会員の皆様のご協力の下、学術活動の推進に力を尽くしたいと存じます。また、北陸から初めて学会活動に理事として参加いたしますので、北陸地に本学会のかぜを送ることができるよう尽力いたします。

「総務担当常任理事として」

古賀由紀子 (九州看護福祉大学)

前期は学会機関紙ハーモニーを担当しておりました。今期は総務担当常任理事を務めさせていただきます。皆様のご意見を聞きながら学会の運営がスムーズに行くよう尽力していきたいと思っております。今後ともご協力ご支援のほどよろしくお願いいたします。

「鳥の目・虫の目・魚の目」

小林 央美 (弘前大学)

会員の皆様のご意見とご助言を頂きながら、子どもの現実を見据えて、養護教諭の資質や力量形成及びその向上につながるように、魅力ある学会活動の推進に尽力したいと思います。また、これまでの養護教諭や学会の歩みをふり振り返り、俯瞰したり、時の情勢を見ながら進める視点も大事にしたいと思います。よろしくをお願いします。

「養護教諭の学問構築にむけて」

鈴木 裕子 (国士舘大学)

学会誌編集委員長を務めた二期6年間、会員の皆様には様々なご協力をいただきありがとうございました。このたびは学術担当常任理事として高橋香代先生の後を引き継ぐことになりました。学術集会の支援と一般発表演題区分のさらなる検討、研究助成や投稿奨励の推進などにより、養護教諭の学問構築につながる活動を、学会誌編集委員会と連携して進めていきたいと考えています。

「よろしくお願いいたします。」

塚原加寿子 (新潟青陵大学)

今年度より理事として学術を担当させていただきます。研究助成や研究推奨等の活動を通して、会員の皆様のご協力のもと、学術活動の推進に力を尽くしたいと思います。

「養護教諭の基軸となる学会誌編集を目指して」

斉藤ふくみ (茨城大学)

前期、鈴木裕子編集委員長のもと多くのことを学ばせていただきました。前委員長が整備された学会誌編集業務を継承しつつ、さらに学会誌の充実発展を目指したいと思っております。今期は、編集小委員会を関西と北海道に置き、編集委員一丸となって、養護教諭の資質向上に寄与する学会誌編集に力を尽くしてまいります。

「養護教諭のためになる働きができるよう励みます」

圓岡 和子 (愛知県立三好高等学校)

昨年度まで事務局長を務めさせていただきました。至らぬ点が多々あったと思います。今期からは総務担当の理事・事務局長として学会運営に寄与することとなりました。本学会の発展のため、学会員の皆様のため、養護教諭のためにこれまでの反省を活かして務めていきたいと思っております。

「学会のさらなる充実発展を願って」

三木とみ子 (女子栄養大学)

この度常任理事として学会活動を担当することとなりました。主な活動は以下の通りです。

- ①本養護教諭教育学会としての「養護教諭の倫理綱領」の作成：理事以外の会員も含めた「倫理綱領検討特別委員会」を組織し検討しています。今年度中に学識経験者や会員からの意見を基に総会の議を経て作成する予定です。
- ②養護教諭の資質や力量の形成及び向上に関する事業：近年の子ども達の健康実態や教育情勢に即した養護教諭の資質向上や力量形成の教育内容について検討します。
- ③学術集会時のプレコンGRESの企画検討：プレコンGRESはその時々テーマを定め学術集会時に実施される会員同士の情報交換と言えます。ここで話し合われた運営上の課題や展望を学会に活かしています。会員の皆様の積極的な意見や知恵を頂き活動のさらなる充実努めたいと思っております。

「経験を活かして」

宮本香代子 (岡山大学大学院)

養護教諭は、児童生徒等の健康や夢をサポートする重要な存在と考えています。管理職をはじめ、他職種との教諭から常に期待される養護教諭であっていただくために、現職・行政・管理職の経験を活かした視点で、

会員の皆様のニーズに応じた情報を提供できるよう務めますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

「身近に感じられる学会に」

森 佳世子 (名古屋市立なごや小学校)

今年度より、新理事として学会の仕事に携わらせていただくことになりました。学校現場と学会とをつなぎ、養護教諭が学会を身近に感じることができるよう、微力ですが、精一杯努めさせていただきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

第23回学術集会(熊本)へのお誘い

学会長 松田 芳子 (熊本大学)

会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと存じます。日本養護教諭教育学会第23回学術集会を2015年10月10日から11日に「くまもと森都心プラザ」で開催致します。11年ぶりの九州での開催です。

今回の学術集会は「学び続ける養護教諭であるために～養成・行政・学校現場をつなぎ、広げ、深める～」をメインテーマとしました。養成・教育行政・学校現場のそれぞれにおいて、養護教諭の資質能力の形成に係る教育・研修がなされています。教職生活の生涯にわたり、学び続ける養護教諭であるために、各々が役割を果たしつつ、円滑につながりさらに連携・協働が機能していくためにはどのような課題や方策があるのかを一緒に考え、深める機会にできたらと考えております。

熊本市では10月中「秋のくまもとお城まつり」の各種イベントが開催されています。その頃の阿蘇は、スキの穂が揺れ、美しい秋景色となっていると思います。

皆様のご参加を、心よりお待ち申し上げます。

第23回学術集会のご案内—第3報—

実行委員長 瀬口 久美代 (熊本大学)

1. 期 日

2015年10月10日(土) 12:00～18:20

10月11日(日) 9:00～16:10

○プレコングレス

10月10日(土) 9:30～11:30

2. 会 場

くまもと森都心プラザ

〒860-0047 熊本市西区春日1丁目14番1号

TEL 096-355-7400

3. メインテーマ

「学び続ける養護教諭であるために～養成・行政・学校現場をつなぎ、広げ、深める～」

4. 内 容

【10月10日(土)】 9:00～受付

1) 開会行事 12:00～12:20

2) 学会長講演 12:20～12:50

「学び続ける養護教諭であるために—本課程における養成の現状を通して—」

3) 特別講演 13:00～14:00

「グローバル化における感染症と社会」

熊本大学学長 原田 信志 氏

4) シンポジウム 14:10～17:00

テーマ「学び続ける養護教諭であるために～養成・行政・学校現場をつなぎ、広げ、深める～」

・コーディネーター：三木とみ子氏(女子栄養大学)他

①指定発言者 3名の養護教諭

②シンポジスト 学校現場・行政関係者・養成関係者の3名

5) 学会助成金研究発表 17:10～17:40

6) 学会活動発表 17:50～18:20

【10月11日(土)】 8:30～受付

1) 教育講演 9:00～10:00

「キレやすい子へのアンガーマネジメント～脳科学からのアプローチ～」

早稲田大学教授 本田 恵子氏

2) 一般口演・ポスター発表 10:10～12:10

3) ランチョンセミナー 12:20～13:20

4) 総 会 13:30～14:30

5) ワークショップ 14:40～16:10

①「携帯電話・スマホの使用について」

②「養護教諭の資質向上のための研修づくり」

③「論文、実践研究の書き方、まとめ方」

[懇親会]

期 日：10月10日(土) 19:00～21:00

会 場：ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ (懇親会費6,000円)

5. 一般演題の募集

1) 口演とポスター発表

2) 演題申込締切：6月30日(火) 必着

3) 抄録原稿締切：7月31日(金) 必着

4) 送付先 熊本大学教育学部養護教諭養成課程

<日本養護教諭教育学会第23回学術集会事務局>

連絡先：TEL/FAX 096-342-2934 (松田)

096-342-2936 (秋月事務局)

e-mail : ykkg23@gmail.com

6. 参加費

会員・非会員4,500円(8/31までの事前振込は4,000円)、学生 2,000円、抄録集のみ2,000円(送料込み)

※学術集会の詳細については、学会ホームページ
<http://www.educ.kumamoto-u.ac.jp/jayte23/> をご覧ください。

新シリーズ：災害について考える①

「声なきものの声」

工藤 宜子 (千葉大学教育学部)

東日本大震災当時、勤務していた高校は海面高さ10mの防潮堤に囲まれ、「防災の町」として全国的に有名な地区にあった。しかし、大津波は一瞬にしてその防潮堤を倒壊し、市街地を全て押し流してしまった。

幸い学校は津波被害を免れたが、それからの数日間、職員は自身の家族の安否も分からないまま、避難してくる被災者の方々の対応に追われた。勤務校は避難所・ご遺体の安置所、そして、警察・自衛隊の屯所となった。

学校再開後、様々な方々からご支援をいただき、職員は感謝の気持ちと共に、支援物資の仕分け、支援に来て下さる方々の対応に追われた。そんな中、震災後の児童生徒のメンタルヘルスに関わる研修会が行われた。普段、地区の県立学校(高校・特別支援学校)と小中学校の養護教諭が一堂に会することはほとんどない。そこで、新入生の母校の養護教諭の先生方に、生徒の中学校時代の様子を聞いてみようと思いをかけた。その先生方の中に、「震災当時のことは話したくない」とお話しになる先生がいらした。「震災当時のことは、家族にも話をすることができないし、話したとしても分かってもらえない」ともお話されていた。

震災からしばらくすると、大学の教員や大学生が研究・卒論のためにお話しを聞かせて欲しいと訪ねてきた。また、各種大会等で震災当時の状況を発表することが求められた。震災を経験した養護教諭の役目と、請われたことについてはできるだけ対応するように心がけた。周りの養護教諭の先生方も同様であった。

震災から1年後、勤務先が大学に変わり、被災地の教育委員会の先生方にお話をうかがう機会を得た。そこで、被災地から内陸に異動された養護教諭の先生方の中に、抑うつ的な傾向が見られ、日々の執務に苦戦している方がいらしたというお話しをうかがった。ふと、「震災当時のことは話せないし、話したとしても誰も分かってくれない」と話していた先生のことを思い出した。

震災当時のことを文章にまとめ、お話しさせていただくことは、時として非常につらいと感じることがあったが、その作業は、自分の中の被災体験と直面することになり、心を整理することにつながったのではないかとも思う。しかし、その作業ができたのは、震災を経験した養護教諭の先生方のごく一部にしか過ぎないのかもしれない。

声を出さない、あるいは声を出せない養護教諭の先生方が、今、どのように過ごされているのか。

この学会ならではの、この学会にしかできない「何か」があるのではないかと思うこの頃である。

私の県の「ここが特色」⑳ (埼玉県)

「理論と実践をつなぐ研究と研修」

藤田 徹子 (埼玉大学教育学部附属小学校)

埼玉県は、埼玉県とさいたま市の国公立幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の養護教諭約1,650人で研究団体、埼玉県養護教員会を構成しています。

本会では、毎年「一歩先を見つめた研究」を合言葉に大きなテーマを1つ設定して研究に取り組んでいます。テーマの設定については、近年、養護教諭に求められる役割が、多岐にわたっていることを鑑み、「各会員からの要望」「教育界の動向」「健康教育における今日的課題」「これまでの研究の成果と課題」等を踏まえて決定します。昨年度は「健康観察」、今年度は「心の健康」をテーマに設定し、質問紙調査による調査研究とテーマに沿った講演会等の研修をリンクさせ、理論と実践を結びつけるストーリー性を持った活動を展開しています。

具体的な研究活動としては、まず全会員が実践を振り返りながら質問紙調査を行います。質問紙の作成に当たっては、小・中・高・特別支援のすべての校種の養護教諭が取り組むため、内容に偏りがないようしなければなりません。そのため、それぞれの校種から研究紀要作成準備委員が選出され、文献研究などを十分に行い、質問紙を作成しています。また、この質問紙調査は、単に全会員の実態把握や意識調査という会全体としての成果を目的としているわけではありません。会員一人一人が質問紙調査に回答していく中で、質問文や選択肢の中から「新たな発見」や「実践の振り返り」、「課題解決のヒント」などを見つけることができ、個人の力量を高められるという個人の研究成果をも期待しています。

会員約1,650人の調査結果は、各地区のリーダーが集計、考察を行い、研究結果の報告として研究紀要にまとめます。研究紀要に掲載するだけでは、なかなか研究成果の共有が難しいという課題が残っていたため、数年前からは、この研究の成果を養護教員会総会の場で報告し、成果と課題を共有しています。

調査研究で日々の実践の振り返りを行うとともに、理論の部分でもその研究テーマに沿った講演会を企画し、「理論と実践」をつなぐことができるようにストーリー性を持たせています。このような取り組みを行うことで、日々の自分の実践を振り返ることができるだけでなく、実践の評価や確認を行うことができます。

養護教諭は、校内に1人ないし2人で勤務しているため、他者の実践を学ぶ機会は多いとはいえません。しかし、本会では、このようにすべての校種が1つの共通したテーマで研究を進めているため、他校や他校種の実践を知ることができます。また、その実践を自校の実態にあわせてアレンジして取り入れることもできます。根拠ある数値データとして情報提供することもできます。

今後も、1,650人を超える会員数で取り組むという良さを生かし、埼玉県の子どものための生涯にわたる健康づくりを支援していきたいと思えます。

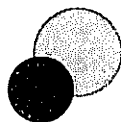
トピックス

…………… 教育再生実行会議 ……………
「これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育、教師の在り方について
(第七次提言) (平成27年5月14日)」

21世紀の日本にふさわしい教育体制を構築し、教育の再生を図っていくため、教育の基本にさかのぼった改革を推進することを目指して、内閣に「教育再生実行会議」が設置されています。その第一次提言(平成19年)以降、現在までに第七次提言が首相官邸の政策会議のHPに掲載されています。これらを受けて、中央教育審議会が様々な検討を進めています。是非、一度ご覧ください。

教育再生実行会議HP

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaicei/teigen.html>



2016年度「研究助成金研究」の申請募集と第23回学術集会での「投稿奨励研究」の推薦について

学術担当常任理事 鈴木 裕子

「研究助成金研究」とは、養護教諭教育に関する研究の発展を目的として、会員の特色ある研究に対して学会より一件10万円を助成するものです。

助成対象は2件以内で、申請のあった中から「研究助成金研究」の選定に関する内規(2013年度総会制定)に則って理事会で選定し、年次総会の承認を経て決定します。選定基準等は学会誌第18巻第2号および学会ホームページをご参照ください。助成を受けた研究は、研究内容をハーモニーで報告するほか、学術集会での研究成果の発表および日本養護教諭教育学会誌への投稿が義務づけられています。

2016年度の申請は、学会ホームページから申請書をダウンロードして研究計画等を記入し、2015年9月10日(木)までに、下記の学術担当理事までメール添付で送信してください。積極的なご申請をお待ちしています!

なおこれとは別に本会は、学術集会で発表された一般演題の中から学術集会学会長、座長、理事の推薦に基づき「投稿奨励研究」を選定しています。特典として査読費用7,000円が免除されます。熊本で開催する第23回学術集会でも実施いたします。養護教諭教育の発展につながるような演題発表を期待しています。

申請先: 〒154-8515 東京都世田谷区世田谷4-28-1

国士舘大学文学部 鈴木 裕子
(学術担当常任理事)

メールアドレス suzukiyu@kokushikan.ac.jp

学会誌第19巻第2号の投稿原稿の募集

学会誌編集委員長 斉藤ふくみ

本学会の目的(会則第2条「本会は、養護教諭教育(養護教諭の資質や力量の形成及び向上に寄与する活動)に関する研究とその発展を目的とする。」)にかなう研究成果(論文)を募集いたします。第19巻第2号(2016年3月発刊予定)へ投稿を予定されている会員は、昨年度本学会総会において投稿規定の改訂がなされたので、改訂投稿規定(学会誌第18巻第2号69~76頁)を熟読されて、十分推敲された原稿をご投稿ください。原稿は年間を通して募集していますが、第19巻第2号の投稿締め切りは2015年9月30日(水)必着です。10月以降到着分は次号にお返ししますのでご了承ください。

編集委員会でしばしば議論される点として①研究目的の明確性 ②研究方法の妥当性 ③図表の大きさ・多さ ④規定枚数の超過 ⑤論旨の不明瞭さ等です。ご留意ください。

〈投稿論文の送付先〉

〒310-8512 水戸市文京2丁目1番1号
茨城大学教育学部教育保健教室
齊藤ふくみ
TEL/FAX 029-228-8298 (研究室直通)
e-mail: fukumi@mx.ibaraki.ac.jp

編集委員会委員の紹介

学会誌編集担当常任理事 齊藤ふくみ

学会誌年2号発刊をよりスムーズに行っていけるよう新たな編集委員会を組織しました。以下のメンバーで進めてまいります。ご協力をよろしくお願いいたします。

*は編集委員会担当の学会理事。以下50音順(敬称略)。

編集委員長

* 齊藤ふくみ (茨城大学)

編集委員

* 大川 尚子 (関西福祉科学大学)
今野 洋子 (北翔大学)
岡本 啓子 (畿央大学)
鎌田 尚子 (足利工業大学)
北口 和美 (近大姫路大学)
築地 優子 (札幌市立屯田南小学校)
照井 沙彩 (札幌市立星置東小学校)
中川 優子 (藤沢市立鶴沼中学校)
西 能代 (京都市立北総合支援学校)
平井 美幸 (大阪教育大学)
松田 芳子 (熊本大学)
松永 恵 (茨城キリスト教大学)
山崎 隆恵 (北海道教育大学札幌校)



理事会等の活動報告

総務担当常任理事 古賀由紀子

2014年度中に開催した理事会・編集委員会(含む小委員会)の議事内容は次の通りです。

☆理事会

1. 2014年度第1回

日時: 2014年4月6日(日)

場所: 女子栄養大学駒込校舎(東京)

内容: 2014年度理事会体制・役割分担の確認、2014年度事業計画、第22回学術集会進捗状況等

2. 2014年度第2回

日時: 2014年7月21日(月/祝)

場所: 女子栄養大学駒込校舎(東京)

内容: 2014年度総会の議案の確認、2013年度決算・2014年度予算案、第22回学術集会準備状況等

3. 2014年度第3回

日時: 2014年10月10日(金)

場所: 千葉大学西千葉キャンパス(千葉)

内容: 2014年度総会の運営及び議案の確認、研究助成金対象研究の採択、プレコングレスの役割分担等

4. 2014年度第4回

日時: 2014年1月10日(土)

場所: 女子栄養大学駒込校舎(東京)

内容: 2014年度事業の総括、2015年度事業の計画、第22回学術集会の総括と第23回学術集会への申し送り等

☆編集委員会

1. 2014年度第1回

日時: 2014年4月6日(日)

場所: 女子栄養大学駒込校舎(東京)

内容: 2014年度編集委員会体制の確認、学会誌第18巻の企画、査読要領の検討、ハーモニー第64号の企画等

2. 2014年度第2回

日時: 2014年7月13日(日)

場所: キャンパス・イノベーションセンター(東京)

内容: 学会誌第18巻第1号の掲載原稿について、ハーモニー第65号の企画等

3. 2014年度第3回
 日 時：2014年10月10日（金）
 場 所：千葉大学西千葉キャンパス（千葉）
 内 容：学会誌第18巻第1号編集報告、第18巻第2号編集計画、ハーモニー第66号の企画等
4. 2014年度第4回
 日 時：2015年1月11日（日）
 場 所：キャンパス・イノベーションセンター（東京）
 内 容：学会誌第18号第2号の掲載原稿について、ハーモニー第67号の企画検討等

◇その他、編集・校正作業のため編集小委員会を9回開催しました。開催日と会場は以下のとおりです。
 2014年9月3日（水）（東京）、9月28日（日）（大阪）、10月26日（日）（大阪）、11月15日（土）（金沢）、11月30日（日）（東京）、2015年1月31日（土）（茨城）、2月23日（月）（茨城）、3月9日（月）（茨城）、3月18日（火）（神奈川）

☆理事会議事録

<2014年度第3回理事会報告>

1. 日 時：2014年10月10日（金） 13：00～16：00
 2. 場 所：千葉大学西千葉キャンパス
 けやき会館中会議室
3. 出席者：三木、池田、今野、入駒、北口、古賀、後藤、小林、斉藤、下村、鈴木、高橋、岡田（第22回学術集会学会長）、高井（監事） 圓岡（事務局長）、瀬口（選挙管理委員長）
4. 議事・報告
- 1) 2014年度総会の協議事項についての検討と確認
 - 2) 総会進行表と委任状の数の確認
 - 3) 助成金研究論文、投稿奨励研究の推薦・選定について
 - 4) ハーモニー第66号企画案の検討
 - 5) 教員養成分野における告示改正への意見（パブコメ）提出の報告
 - 6) 第22回学術集会におけるプレコングレスの運営について
 - 7) 第23回学術集会進捗状況報告

<2014年度第4回理事会報告>

1. 日 時：2015年1月10日（土） 13：00～16：00
 2. 場 所：女子栄養大学駒込キャンパス3号館3階3302教室

3. 出席者：三木、後藤、今野、入駒、高橋、小林、鈴木、古賀、斉藤、下村、北口、藤田
 欠席者：池田
4. 議事・報告
- 1) 2014年度第3回議事録（案）の確認
 - 2) 2014年度総会議事録（案）の確認
 - 3) 第22回学術集会の総括と次期学術集会への申し送り事項の確認
 「理事会からの申し送り事項について」および「第22回学術集会のまとめについて」報告と確認がなされた。
 - 4) 2014年度活動経過報告
 学会活動、学術、学会誌、総務の各常任理事より資料をもとに2014年度の活動の経過報告がなされた。
 - 5) 第23回学術集会の進捗状況の報告

「養護教諭の倫理綱領(案)」への意見募集

2014年度総会でご承認いただいた条文の各項目について、「養護教諭の倫理綱領検討特別委員会」では同封資料のような（案）を作成しました。現在、理事や学外有識者の意見集約を行っているところですが、会員各位のご意見を賜りたく、お願いする所です。ご意見等のある方は、6月30日（火）までに学会事務局にメールにてご連絡ください。ご意見は、有識者の意見と合わせて集約し、次回理事会および検討特別委員会での協議に反映させていただきます。結果は、9月発行予定のハーモニー送付時に報告し、再度のご意見をいただく予定です。

学会事務局のE-mail：

JAYTEjimu@yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp

編 集 後 記

今まで特別企画として「東日本大震災の経験を通して一被災地の今」と題して、2012年9月の岩手県からはじまり、宮城、福島、茨城の各県の震災を経験された先生方から被災地の状況を報告していただきました。その思いを引き継ぎ、継続的な支援のためにも、今号から、新シリーズとして「災害について考える」と題して、震災だけではなく、色々な災害についてそれぞれの立場で報告していただき、会員の皆様で深めていくことができると考えています。ぜひとも、会員の方々のご報告をお待ちしております（N.O.）。